【推 薦】
太田　素子（和光大学名誉教授）
広井多鶴子（実践女子大学教授）

絵：佐藤瑞彦
（第８巻第２号表紙，1936年2月）

1930 年代、新中間層が求めたユートピア・郊外型幼稚園、阿佐ヶ谷幼稚園に花開いた「母親教育」の新しいかたち

―― 新中間層の教育要求に応え、母親教育を通じて家庭の再編を試みた郊外型幼稚園の戦前・戦後を伝える『子供の教養』――

大正期以降、急増する会社員、官吏、マスコミ、教育関係者ら勃興するホワイトカラーの父母たちの期待を受け、日本全国、そして朝鮮、台湾へと広くその読者層を広げた『子供の教養』。新たな自己像の獲得を試みた母親たちに歓迎された、児童の保育と母親の教育とは？

1930 年代から戦後につながる、高崎能樹、武南高志、佐藤瑞彦、赤井米吉、上澤謙二らの、育児を通じた「個性本位」の啓蒙誌は、幼児教育の現在と近代家族の在り方に新たな光をあてるだろう。

復刻版　　幼児教育資料アーカイブ４

子供の教養

全 10 巻
全３回配本
別冊（解説・総目次・索引）付

解 説：福元 真由美（青山学院大学教授）

底 本：『子供の教養』第１巻第１号－第 13 巻第８号、復刊第１巻第１号－第８巻第３号
（1929 年１月 -1941 年８月、子供の教養社発行）　（1946 年３月 -1953 年７月、同）

揃定価：277,750 円（揃本体 252,500 円＋税 10%）

不二出版

▶幼児教育資料アーカイブ４◀

〈復刻版〉 **子供の教養**　全10巻・別冊1　全３回配本　解説・総目次・索引付

底本◎『子供の教養』第1巻第１号－第13巻第8号（1929年1月-1941年8月、子供の教養社発行）
復刊第1巻第１号－第8巻第3号（1946年3月-1953年7月、同上）
解説◎福元 真由美（青山学院大学教授）
推薦◎太田素子（和光大学名誉教授）　広井多鶴子（実践女子大学教授）　資料協力◎髙崎 彰・武南恵二
揃定価◎277,750円（揃本体252,500円＋税10%）
体裁◎全10巻／総約3800頁（４面付）／ A4判／上製／布クロス装
別冊◎解説・総目次・索引　定価2,750円（本体2,500円＋税）　ISBN 978-4-8350-8611-8　※分売可。

配本	巻　数（全巻数）	収録巻号数（発行年月）	揃定価	ISBN-NO (978-4-8350)	刊行予定
第1回配本	第1～3巻（全3巻）	第1巻第1号―第5巻第3号（1929年1月―1933年3月）	82,500円（揃本体75,000円＋税10%）	8548-7	2022年10月
第2回配本	第4～6巻（全3巻）	第5巻第4号―第8巻第9号（1933年4月―1936年9月）	82,500円（揃本体75,000円＋税10%）	8601-9	2023年2月
第3回配本	第7～10巻（全4巻）・別冊1	第8巻第10号―第13巻第8号（1936年10月―1941年8月）／復刊第1巻第1号―第8巻第3号（1946年3月―1953年7月）	112,750円（揃本体102,500円＋税10%）	8605-7	2023年4月

お薦め先　幼児教育・保育、児童文化、日本キリスト教史、教育学、メディア研究、家族社会学等の研究者、大学図書館・専門図書館

好評の関連図書！

■ 詳細は小社ＨＰをご確認下さい。

幼児教育資料アーカイブ３
幼小接続資料集成　全3回配本・全7巻・別冊1
編集・解説 ― 太田 素子・小玉 亮子・福元 真由美・浅井 幸子・大西 公恵
推薦 ― 汐見 稔幸・無藤 隆
揃定価 ― 162,800円（揃本体148,000円＋税10%）
体裁 ― 全７巻／２面付／Ａ４判・Ａ５判・Ｂ５判／上製／計約4800頁

第１回配本・全２巻「神戸大学・東京学芸大学」	揃定価48,400円（揃本体44,000円＋税10%）	ISBN978-4-8350-8417-6
第２回配本・全３巻「お茶の水女子大学・奈良女子大学・成城学園・玉川学園・和光学園」	揃定価72,600円（揃本体66,000 円＋税10%）	ISBN 978-4-8350-8420-6
第３回配本・全２巻「幼年教育１・２」	揃定価41,800円（揃本体38,000 円＋税10%）	ISBN 978-4-8350-8424-4

幼児教育と小学校教育との連携と実践の記録を、戦後から2010年代まで一挙に収録！　別冊・解説（定価3,300円）分売可。

幼児教育資料アーカイブ２
戦前期愛育会関係資料集成
全４回配本・全11巻
解説 ― 湯川嘉津美
資料協力 ― 恩賜財団母子愛育会・金沢大学附属図書館ほか
推薦 ― 網野武博・宍戸健夫
揃定価 ―242,000円（揃本体220,000円＋税10%）
体裁 ― Ｂ5判・上製・布クロス装・総約4500頁〔２面付〕

第１回配本・全２巻	定価44,000円（本体40,000円＋税10%）	ISBN 978-4-8350-8356-8
第２回配本・全２巻	定価44,000円（本体40,000円＋税10%）	ISBN 978-4-8350-8359-9
第３回配本・全３巻	定価66,000円（本体60,000円＋税10%）	ISBN 978-4-8350-8362-9
第４回配本・全４巻	定価88,000円（本体80,000円＋税10%）	ISBN 978-4-8350-8366-7

雑誌『愛育』、『愛育新聞』はじめ、戦前期の愛育会の活動を把握するための重要資料を集成！「母性」と「子ども」をめぐる戦前期の視点を包括的に理解するために！

幼児教育資料アーカイブ１
復刻版 関西連合保育会雑誌
全２巻
解説 ―― 湯川嘉津美
資料協力 ― 大阪市立愛珠幼稚園・大阪市教育センター
揃定価 ―― 39,600円（揃本体 36,000円＋税10%）　ISBN 978-4-8350-8311-7
体裁 ―― B5判・上製・総約1,000頁
『関西連合保育会雑誌』51-55号（28年8月-38年8月）ほか、同会関連資料を収録！　戦前期保育をリードした関西保育界の実情を伝える。

日本のカリキュラム・マネジメント、その出発点とは？
大正新教育 学級・学校経営 重要文献選　全３回配本・全10巻
編集・解説 ― 橋本美保・遠座知恵
推薦 ― 天笠茂・佐藤学　揃定価 ― 198,000円（揃定価180,000円+税10%）　体裁 ― Ａ５判・上製・総約4,000頁

北澤種一、木下竹次、池田小菊、富山県師範学校附属小学校など、大正期に果敢に試みられた「学級経営」の実践に迫る！**在庫僅少。**

第Ⅰ期	第1回配本・全３巻	揃定価59,400円（揃本体54,000円+税10%）	ISBN978-4-8350-8283-7
	第2回配本・全３巻	揃定価59,400円（揃本体54,000円+税10%）	ISBN978-4-8350-8287-5
第Ⅱ期	第３回配本・全４巻	揃定価79,200円（揃本体72,000円+税10%）	ISBN978-4-8350-8291-2

不二出版
〒112-0005
東京都文京区水道2-10-10
TEL 03-5981-6704
FAX 03-5981-6705
振替 00160-2-94084

表示価格はすべて税込

推薦のことば

都市における「子育て文化」揺籃期に迫る

太田　素子

『子供の教養』という雑誌のタイトルに、「おや？」と感じるむきもあるかもしれない。「教養」は大正期以降、哲学や人生論、博識と透徹した世界観など、全人的な文化的背景を意味することばとして使われ、時にはその現実を軽視する高邁な性格を「教養主義」と批判されることもあった。しかし明治期まで、この教養ということばは文字どおり「教え養う」行為を指すものとして、一般に使用されていた。「教育」ということばよりも「教養」を好むという場合、そこにどのような志向が込められていたのか、今日までほとんど究明されていないが、興味深い問題があるかもしれないと思う。

今回、福元真由美氏の編集・解説によって復刻される『子供の教養』（一九二九-五三年、戦中は中断）は、当時すでに二、三割にまで膨れあがっていた知的で新しい時代感覚をもった都市新中間層の家庭教育の必要に応えるために、武蔵野の一角でその産声をあげた。福元氏は『都市に誕生した保育の系譜 アソシエーショニズムと郊外のユートピア』（世織書房、二〇一九年）で、一九二〇—三〇年代にかけて、都市スラムで保育（託児）事業が拡大する現象と、郊外で教育熱心な新中間層の家庭に向けた私立幼稚園が設立されてゆく現象を並行して捉えることで、近代日本の幼児教育の基盤が形成されてゆくさまを統一的に描き出した。戦争を挟み四半世紀にわたって出版を継続したこの雑誌は、高い志をもって日本の私立幼稚園がつくられた時代の教育意識とともに、幼稚園を核として新興住宅地に生まれた、母親たちの子育てのための学びの場の空気を伝えている。

主筆である髙崎能樹は、阿佐ヶ谷が開発される当初からこの地に幼稚園を設立、日曜学校や母の会など母性教育に情熱を傾けた。自由学園の佐藤瑞彦、明星学園の赤井米吉、照井猪一郎ら大正新教育の担い手たちも積極的に参加した。戦中に廃刊となるまで「子供の教養社」を経営した武南高志は、『子供の教養』を編集しつつ、髙崎能樹『愛児教養の実際』、佐藤瑞彦『母に捧ぐ』、霜田静志『子供と絵・手工』、青木誠四郎『新生児より青年期へ』など多数を出版、その部数は累計で一〇万部をも超えたという。廃刊ののち武南は、自ら小金井教会と同附属幼稚園を開設している。髙崎は戦後、阿佐ヶ谷幼稚園に出版局を置き、倉橋惣三、赤井米吉らを顧問に雑誌を復刊。キリスト教人道主義を基盤とし、影響力の大きい母親の「教養」の重要性を強調する、「個性本位」「良き性情」「自発的な人格」を基調とした学習への構えを育てることに尽力したという。

新中間層の高い教育要求に応えつつ、その家族の悩みや疑問に答えるなかで、髙崎らが紡ぎ出した人間性豊かで知的な人格形成をめざした教育は、クリスチャンのみならず現代の日本における「子育て文化」の土壌に深く浸透している。『子供の教養』復刻が、近代以降の都市部における子育て文化をあらためて振り返る機会となることを、心から願っている。

（おおた もとこ・和光大学名誉教授）

「母性の教育」による社会改良をめざして

―「母性の自覚」こそが、地上を「天国」にする―

広井　多鶴子

一九二二（大正一一）年、東京市西部に現在の中央線高円寺駅、阿佐ケ谷駅、西荻窪駅が新設される。それ以降、杉並は農村地帯から都市近郊の住宅地へと急速に変貌していく。赤坂教会牧師、日本基督教会日曜学校局主事などを務めた髙崎能樹が、阿佐ヶ谷幼稚園を開設したのは一九二五（大正一四）年。ちょうど杉並が、新中間層の多く住む街へと変貌する時期だった。そしてその四年後の一九二九（昭和四）年には、主に母親を対象として雑誌『子供の教養』を発行する。だがなぜ髙崎は、杉並に幼稚園を設立し、『子どもの教養』を創刊したのか。

髙崎は創刊号で、これまで親たちは「子女を家庭より学校へ放逐」し、学校も「越権の罪を犯しつゝ子女を家庭より奪ひ取りました」と主張する。それは、親（とくに母親）こそが「真の教養者」（教育者）であり、親が子どもの教育に関して全責任を負うべきだと考えるからである。『子供の教養』の刊行は、子どもの教育責任を親に返しつつ、母親による家庭教育を「補助」するための新たな試みだった。

だが、学校を否定しているわけではない。髙崎は、すべての子どもは「群衆生活」のなかで「協同的幸福の途」を学ぶべきとし、さらに「教養者も被教養者も互ひに永年変わらざる所に立脚」するための具体的な場所として、この阿佐ヶ谷に幼稚園をつくったのだという。髙崎は園長として幼稚園を運営し、実際に子どもに関わりつつ「母の会」や「母の学校」を組織し、母親教育に力を入れた。『子供の教養』は、母の会の教科書としても使用されていた。髙崎にとって阿佐ヶ谷幼稚園と『子供の教養』は、子どもに集団的・組織的な教育を保障する場であるとともに、いわゆる「母性」を育て、母親たちを「真の教養者」にするための教育実践の場でもあった。具体的な場所から母親教育を展開することが、髙崎にはなにより重要なものと考えられたのである。

こうした取り組みは、母親による家庭教育の重要性を説く「母性主義」が科学的根拠をもつものとして、知識人や中間層に浸透した時代が生み出したものといえるだろう。母性主義には良妻賢母論の流れだけでなく、髙崎がめざしたキリスト教に基づく社会改良の系譜、心理学や教育学などの科学主義を根拠とした系譜、平塚雷鳥らの母性主義フェミニズムの系譜があり、それらが混ざり合って母性主義というパラダイムが形成されたのである。だが当時、家庭教育に重きを置くその主張ゆえに、幼稚園を不要とする論調も存在した。そこで髙崎が幼稚園教育と母親教育の両方に取り組んだのは、幼稚園不要論に対する最も有効な反論の一つだったと思われる。それはまた、幼稚園と家庭との連携による家庭教育の改善・強化という、その後の国の幼稚園政策を先き取りするものでもあっただろう。

髙崎能樹はこれまであまり注目されてこなかった。「お母様よ、自覚してください」という髙崎の「ベタ」な訴えは、今日では極端な「母性偏重」であり「母性神話だ」とみなされよう。だが、母親による「母性の自覚」と「修養」こそが、地上を「天国」にする方法だと信じられていた時代があった。『子供の教養』は幼稚園という場所を舞台に、信仰と科学に基づく「母性の教育」を通じて社会を改良しようとする、髙崎らの熱気であふれていた。そして杉並をはじめとする郊外住宅地には、そうした期待に応えようとする若い母親たちが、確かに存在していたのである。

（ひろい たづこ・実践女子大学教授）

■ 上は1931年2月15日、YWCAの『子供の教養』同人会における記念写真。前列右から、髙崎能樹、赤井米吉、佐藤瑞彦、霜田静志。後列左端は武南高志。▶右はその場で佐藤が描いた髙崎のスケッチという。「家庭を聖化せよ」の言葉は髙崎自らによる。編集会議となった会合が終わると、「私どもの心には力強い響きが蓄えられた」と記されている（第3巻第3号、1931年3月）。

『子供の教養』はさまざまなテーマの座談会で活況を呈していた——

◀リトミック研究ですでに名をはせていた、成城幼稚園の小林宗作を招いて開かれた、「『子供と音楽』の座談会」。「（音楽教育をはじめるのは子供が）生まれた日から始まるのです」と小林は喝破する（第7巻第8号、1935年8月）。

◀明星学園の赤井米吉、照井猪一郎らが幼稚園から小学校への接続について懇談会を開く。「幼小接続」は私学においては喫緊の課題だった（第1巻第1号、1929年1月）。◀「母の日特集号」では、賀川豊彦の妻・春、村岡花子らを招き「母について」語る。村岡は「母に対しては極く地味な気持ちをもっております」という（第4巻第5号、1932年5月）。

◀「おもちゃをもっていない民族は滅びる」と武井武雄。佐藤瑞彦は「積木には永遠の価値がある」とフレーベルの恩物を念頭に称揚。尽きることのないおもちゃ談義は大いに盛り上がる（第4巻第8号、1932年8月）。◀青山師範訓導の高村広吉が7名の母親を招き、中学・女学校の入学試験準備について語り合う。新中間層の親の教育要求に応えるこうした特集のニーズは高かった（第5巻第10号、1933年10月）。

復刻にあたって

福元 真由美

このたび、不二出版より幼児教育資料アーカイブズ4として、戦前・戦後にわたる貴重な教育・育児雑誌である『子供の教養』が復刻されることになった。本誌は一九二三(大正一二)年、関東大震災に見舞われた東京において、新たな教育の拠点が次々と郊外に形成された時期に、その人的なネットワークを土台として誕生した。革新的な教育実践を試みた新教育の幼稚園・学校がその拠点であった。新教育の実践を基礎とした教育学の専門的な見地、さらに医学、心理学による科学的な見地、キリスト教信仰といった思想的見地から、『子供の教養』は主な読者である新中間層の親や教育者に向け、子育てと教育の新たな方向性を提示しようとした。

『子供の教養』は、一九二九(昭和四)年から一九五三(昭和二八)年にかけて発行された月刊誌である(一九四一~四五年は休刊)。戦前は、のちに小金井教会幼稚園を設立した武南高志(一八九五―一九七八)を編集・兼発行者として、子供の教養社から発行され、戦後は阿佐ヶ谷幼稚園園長の髙崎能樹(一八八四―一九五八)の編集により、阿佐ヶ谷幼稚園で発行された。同誌を販売する書店は、東京、仙台、名古屋、金沢、京都、大阪、神戸、福岡と全国に及び、読者は国内にとどまらず朝鮮、台湾、関東州、樺太、米国にも広がったという。

この雑誌の復刻は、子育て、保育、教育をめぐる多方面の学術研究に資するだろう。ここでは特に三つの方面をあげておきたい。

第一に、近代日本保育・教育史研究においては、教育に関する論説・時評、教育原理、教育思想、保育指導案、世界の教育動向などの記事を通して、本誌同人をはじめとする執筆者の子ども観・教育観を、細やかな筆致から解読することができる。執筆者には成城学園、明星学園、自由学園という新教育の先進校に属する教員たちが多数を占めていた。彼らが家庭に向けて発信したメッセージには、その教育理念、実践のエッセンスが込められていた。

第二に、近代家族・女性史研究においては、本誌で展開される母親向けの講座、家庭教育座談会、心理学・医学の専門家による子ども・育児の記事などから、教育する家族、母親の養育態度のモデル・規範が、子ども中心主義と科学主義とに結びつき、葛藤するさまを読み取ることができる。

第三に、キリスト教教育研究においては、各種の宗教教育の記事を通して、キリスト教教育における当時の保育、学校、家庭教育のありようを、乳幼児期から青年期まで探究することができる。『子供の教養』は、牧師である髙崎と武南を中心として、沖野岩三郎、佐藤瑞彦、赤井米吉、高村広吉、上澤謙二などのクリスチャンの教員、児童文学者、学者らが、キリスト教信仰を基盤とした子ども論、教育論を展開した点に大きな特色があった。本誌に別冊として附される総目次・索引は、四半世紀にも及ぶ彼らの議論を確認できる、貴重な軌跡といえるだろう。

こうした多様な側面をもつ貴重な歴史資料である『子供の教養』復刻を喜び、本誌が全国の図書館、研究機関、研究者によって活用され、今後の諸研究の進展に貢献することを心から願う。

(ふくもと まゆみ・青山学院大学教授)

子供の教養(第九巻第八號)―一九三七年八月―目次

◇表紙……佐藤瑞彦……
◇口絵「夏の便り」……齋田晃……

〔子供を觀る〕
損はれゆく子供心……高崎能樹…(七)…
子供自身がよくなりたいと思ふやうにするにはどう導いたらよいか?……佐藤瑞彦…(二)…
青年期の交友關係……細井次郎…(六)…
父の爲に、子供の教育を語る……赤井米吉…(九)…
フレーベルの『人間の教育』……齋藤善太郎…(三)…
綜合的保育案の立て方……高崎能樹…(七)…
時の問題……長谷川初音…(六)…
雑筆さまざま……佐藤瑞彦…(六)…
健康調査表を前にして……大崎治郎…(三)…
小兒病とその手當……西尾恒敬…(七)…
幼兒心理學(母と保姆のため)……齋田晃…(四)…

◇寶話◇
村の子供、町の子供……中村勇…(三)…
凋ましてしまったか、花の一つを……齋藤善太郎…(七)…
線の細い子供……高村廣吉…(四)…
奉公に行った子供……谷津善次郎…(四)…
子供と勉強……濱眞喜男…(四)…
詩への白々明け……齋藤潔…(五)…
散歩ならざる散歩の記……上澤謙二…(五)…
父の會で拾った話……A…(六)…
讀書三昧境……B…(四)…
海動集(戯)……大崎治郎…(四)…
マルコーニとその母……齋藤潔…(八)…
中等學校入學選拔方法(三)……編輯室…(一〇)…
子供を育てるは「母」か「育兒院」か(四)……敎養歌壇…(八)…
電報(六)……(九)…
子供の自慢(六)……阿佐ヶ谷たより…(九)…

長篇童話……沖野岩三郎…(八)…
―家庭を聖化せよ・子供を純潔に育てよ!―

◀『子供の教養』は、執筆陣と編者が20年近い歳月にわたって連続している。そのため、大正新教育の終わりから戦時体制、そして戦後までの彼らの主張の変化と共通性を知ることができるだろう。

◀左は本誌第2巻第1号(1930年、1月)に写真入りで紹介された執筆者。上から、**佐藤瑞彦**(自由学園、1893-1981)、**沖野岩三郎**(児童文学者、1876-1956)、**上澤謙二**(童話作家、1890-1978)、**赤井米吉**(明星学園、1887-1974)。

何故幼稚園が必要か

高崎能樹

一、二つの意義

毎年三月頃になると『子供を幼稚園に入れる可否』が盛んに新聞紙上で論ぜられますが、大多數は教育のことに門外漢である人々の氣まぐれ議論や、認識不足の主張で、眞面目に傾聴し得られる議論の乏しい事を甚だ遺憾に存じます。

そこで私は幼稚園の當事者としての立場から、何うしても幼稚園が必要であり、且つ子供を是非幼稚園に入れねばならぬことの主張と理由とを明白に申述べて見たいと思ひます。

まづ幼稚園存立の意義に就て申述べたいと思ひますが第一は『家庭教育の缺陷を補ふ』と云ふ事で、現今の家庭教育がどうして完全にゆかない以上、その補助機關としての幼稚園の働きが必要なことは無論であります。

第二は幼稚園教育はさうした家庭教育の補助機關たり得るばかりでなく、到底家庭に於て爲し能はざる所を幼稚園に於てのみ爲し得る獨特の働きがあるのでありまして、之が即ち幼稚園の存立する本質的な意義であります。

以上の如く家庭教育の補助機關としての存立意義と、それ自體が持つところの本質的な存立意義とが幼稚園にあるのでありまして、私は之からそれを順々に説明しやうと思ひます。

二、社會性

一個人としてどんなねても、人格が立派で義な働きをすることの出來ない人は取るに足りません。よく書齋にのみ閉ぢ籠つて本喰蟲のやうに勉强してゐても、非社會的で世の中に押し出して見ると丸で役に立たぬ人物がありますが、そんな人間は全く穀潰しであります。

私共の教育は、將來社會の活舞臺に立つて力强く働き得る有用な人物を養成する事が大目的ではありますまいか。でありますから私共の教育に於ては社會性の訓練や教養を非常に重大視するのであります。

■「私は幼稚園の当事者としての立場から、何うしても幼稚園が必要であり、かつ子供をぜひ幼稚園に入れねばならぬことの主張と理由とを明白に申述べて」みたいと高崎はいう。家庭教育と幼稚園による集団的な教育を両輪として強く主張した高崎にとって、幼稚園はなくてはならないものだった。(高崎「何故幼稚園が必要か」第6巻第2号、1934年2月)

◇十人十色の子を迎へて

子を送る親、迎へる學校

照井猪一郎

この寫眞は明星學園小學部の子供らが學校の直ぐ近く、井頭公園の構内にふみ入たのを、通り掛りの人が見て、「出來た絵の題にしたい」と約束した。のが昨年の夏、歳が半年も經つた此頃、ひょっくり絵つて來た。この寫眞の裏には「ことんどはどこで君にめぐりあふだろう」と鉛筆で書きがあった。

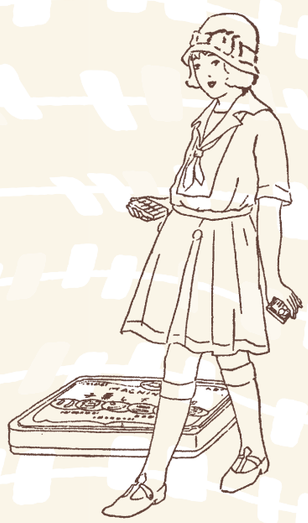
一、學校の仕事はかうして始まる

ありませうか?

寄しくも又床しきものは個性の正體であります。個性はまことに神意に基く運命的なものでしかありません。それ自體絶對的な實在であると觀ずる以上、それは沒價値のものであります。

けれ共私徒は人間たるが故に事實此の個性が人生としては大きな價値的活動の原動力となり、生涯の生活を左右するのであります。

■「子を送る親、迎へる學校」(第6巻第4号、1934年4月)。家庭から見えにくい学校・教師の視点を親切に論ずる本稿は、母親たちの関心に応える主題を扱ったものといえる。



母の質問會

◇試驗場で聞する場合

◇九月十八日の午後
◇東京岡志會館圖書室

中、女學校の「入學試驗準備」に就て

東京青山師範講學 高村廣吉

出席者 岩川静子 越田たみ子 岡田春江 高木眞江 陣内吉子 佐上美子 上花博子

高村―今日お出で下さつた皆さまは中學校女學校の入學試驗について神經過のあるお方、または近く神經過をなさる立場にいらっしゃる方と思ひます。この入學試驗とよいふことは非常に大切な問題で、皆さまもご存じの通り、ほんとうに一生の運命を左右するものであるとよいふことは、先日も茶飲話にちょっと出たのですが、例へば、ほんとうに入たいふことは、とれまでに準備出來ないとよくしてお下さつたので、試驗場で落着れてをります。殆ん神經のとよがはれますので、東京府とか文部省などでも、この弊害を除くために調査が出てをります。つまらないふ風にやつたら、つまらない神經過をなさる立場にいらっしゃる方と思ひます。この方面のことも、ぼつ〳〵お話しあるつもりです。

B―試驗場に行つてあがつてしまふやうなのは、どういふ風に導いたらよろしうございますか。

高村―お子さんの性質でもよりますね。先生方の指導をもつて同志方をも同じ方に導いてゆくやうにしたらよろしうございますね。

B―試驗場に行つてあがつてしまふやうなのは、どういふ風に導いたらよろしうございますか。

高村―お子さんの性質でもよりますね。先生方の指導をもつて同志方をも同じ方に導いてゆくやうにしたらよろしうございますね。

トマル具象製マイヤ　機行飛　彩人千與

「おもちやの座談會

◇時・七月十六日夜・雨
◇所・神田・多賀羅亭

―出席者―

東京市・武井武雄
三越本店玩具部主任・横山義一
自由講學校主事・佐藤瑞彦
學校美術協會理事・霜田静志
阿佐ヶ谷幼稚園長・高崎能樹
武南高志

最近好く貴れるもの

武南　おもちやとついては、一般に割合興味をもつてゐますが、子供の幼兒時代から幼兒時代は特におもちやに惹きる。無が少くないと思ひます。今晩はこの問題をじっ〳〵と考へて見たいとまして、ここの頃アパートなどには、どこでもやうなおもちやが、香をく貴れますやうかり。何故の點または傾向の點においてすね。

横山　一般に出品の値段が下つてきますから、おもちやも最近は、ふんだんなものです。どうも最近は、ふんだんなものです。どうも最近は、ふんだんなものです。

高崎　値段をお調べになつたことがあるでせうか。値段が安いと思ひます。

横山　値段は、ほとんど同じ値段で安い物が出ますね。

高崎　値段をお調べになつたことがあります。何へば、昨年物の出る時期、室